Clinical Question 2

腰椎椎間板ヘルニアに対して、モビライゼーションまたはマニピュレーションは有用か。

推奨 腰椎椎間板ヘルニア患者において、モビライゼーションまたはマニピュレーションを行う際には、疾病に対する基本的知識をもったうえで、十分なトレーニングを行った理学療法士に限り実施することを条件付きで推奨する。

□推奨の条件：あり

- ・モビライゼーションは短期効果に着目する場合
- ・マニピュレーションは中期効果に着目し、手術と比較した場合
- ・疾病に対する基本的知識をもち、十分なトレーニングを行った理学療法士が実施する場合

□推奨の強さ：条件付き推奨 □エビデンスの強さ：とても弱い

□作成グループ投票結果

当該介入に反対する強い推奨	当該介入に反対する条件付き推奨	当該介入・対照双方に対する条件付き推奨	当該介入の条件付き推奨	当該介入の強い推奨	推奨なし
0% 0名	9% 1名	18% 2名	73% 8名	0%0名	0%0名

◆CQの構成要素 (PICO)

P (Patients, Problem, Population)			
性別	指定なし	年齢	指定なし
疾患・病態	腰椎椎間板ヘルニア	その他	指定なし
I (Interventions) / C (Comparisons, Controls, Comparators) のリスト			
モビライゼーション、マニピュレーション、一般的な理学療法、治療なし			
O (Outcomes) のリスト			
Outcomeの内容			
O1	生活の質の改善		
O2	治療期間の減少		
O3	手術の回避		
O4	疼痛軽減		
O5	可動性改善		
O6	神経症状の改善		
O8	歩行能力の改善		

解説

◆CQの背景

腰椎椎間板ヘルニアは、椎間板の退行変性によって生じた線維輪の亀裂から、変性髄核が脊柱管に突出または脱出して神経根を圧迫し、腰痛または根性坐骨神経痛をきたす疾患である。神経脱所見として、障害神経根に対応した深部反射の低下・消失、感覚障害、筋力低下が単独ないし重複して出現する。重症の馬尾症候群の例では、早期の手術療法が適応となる。それ以外の多くの例では、保存療法となる。保存療法は、運動療法、徒手療法、物理療法、薬物療法に大別される。運動療法は一般的に用いられているが、徒手理学療法にあたるモビライゼーションやマニピュレーションの効果については明らかになっていないことから検証する必要がある。

◆エビデンスの評価

外科的治療を行っていない保存療法のヘルニア患者を対象とした RCT³ 編^{1,2,3)}を採択した。効果の検証としては、1 か月以内の即時効果を示した 2 編と、3 か月の中期効果を示した 1 編について実施した。各アウトカムに影響を及ぼすおそれのある実行バイアス、検出バイアス、症例が少ないことによるバイアスリスクや、サンプルサイズが小さいなどの問題などがあつた。生活の質 (Quality of Life)、疼痛、歩行能力に対する中期効果を認めた論文は 1 編³⁾であるがマニピュレー

ションは手術と同等の効果を認めている。疼痛（動作時痛）、神経症状に対する即時効果を認めた論文は1編¹⁾であるが、一般的な理学療法や物理療法と比較してモビライゼーションの有意な改善が認められている。主観的な疼痛、可動性（腰椎屈曲可動域、指床間距離）に対する即時効果を認めた論文は2編^{1,2)}あり、一般的な理学療法や物理療法と比較してモビライゼーションの有意な改善が認められている。このように一定の効果を認める報告はあるものの、論文数の少なさやバイアスリスクの高さがある。このようなことから、条件付き推奨とし、エビデンスの強さはとても弱いと判断した。

◆益と害のバランス評価

モビライゼーションの実施による即時的な疼痛の軽減、可動性の改善を期待できる可能性がある。マニピュレーションの実施による効果については論文数が1編であり判断が困難である。有害事象については言及されておらず望ましくない影響（害）は小さいと考えられる。従って、益が害を上回ると考える。

◆患者の価値観・希望

疼痛に対する認知や態度は、患者の置かれた環境や状況によってある程度ばらつきがあると考ええる。しかしながら、即時的に疼痛や可動性が改善することは価値があり、この捉え方は患者間でのばらつきは小さいと考える。

◆コストの評価

保険診療の範囲内ではあるが、治療期間が1-3か月に及ぶことからコストの増加と時間の制約を見込む必要がある。

◆文献・検索式はWeb掲載 <http://>

- 1). Lopez-Diaz JV, et al.: "Effectiveness of continuous vertebral resonant oscillation using the POLD method in the treatment of lumbar disc hernia". A randomized controlled pilot study. *Man Ther.* 2015 ; 20(3) : 481-486.
- 2). Lee Y, et al.: Effect of decompression therapy combined with joint mobilization on patients with lumbar herniated nucleus pulposus. *J Phys Ther Sci.* 2012 ; 24 : 829-832.
- 3). McMorland G, et al.: Manipulation or microdiscectomy for sciatica? A prospective randomized clinical study. *J Manipulative Physiol Ther.* 2010 ; 33(8) : 576-584.